

●里山と雑木林●

里山には、クヌギやコナラなどが生えている雑木林があります。昔は雑木林の樹木を炭や薪、肥料をつくるために利用していました。人々が手入れをすることで、雑木林は木もれ陽がさしこむ明るい林に保たれ、四季を通じてさまざまな植物が育ちます。

萌芽

樹木の中には、切ると切株からたくさんの芽が伸びてくるものがある（萌芽）。

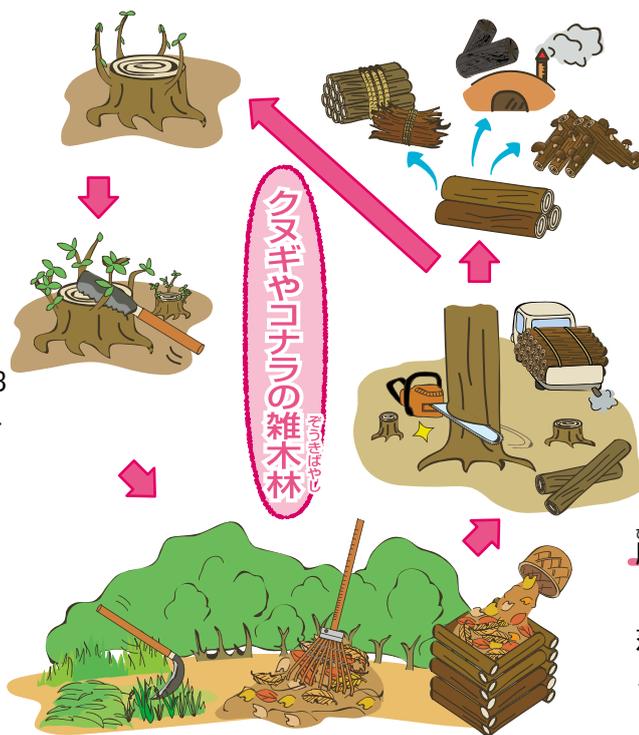
この中から、炭や薪にしやすい木（クヌギ・コナラ・イヌシデ）を選んで大きく育てる。

もやわけ

伸びてきた枝を整理して2,3本にすること。これを幹が5～20cmくらいになるまで育てる。

下草刈り、落ち葉かき

下草の刈り取りや落ち葉かきなどの手入れをする。



利用

切った木は、炭や薪、シイタケのほだ木（菌を植えてキノコを栽培する丸太）などに利用する。

伐採

木の種類などによってちがうが、20年くらいで大きくなった幹を切って、運び出す。

肥料づくり

刈り取った、下草や落ち葉は、田畑に入れる肥料や、家畜のエサとして利用する。

●元気な雑木林は生きものがいっぱい●

植物が豊かなため、昆虫などの動物も多くすんでいます。みなさんが良く知っている昆虫たちにも、雑木林の手入れのサイクルとうまく付き合っているものがあります。



カブトムシの幼虫

肥料(たい肥)

落ち葉を集めた、たい肥おき場では、カブトムシの幼虫が育ちます。



スミナガシ

カブトムシ

樹液

夏、樹液がたくさんでるクヌギやコナラの幹には、さまざまな昆虫が集まっています。